

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 3 月 1 日

事業所名 コベルプラス 天久教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		・粗大運動を行う部屋では大きなマットを敷く。	・子どもたちの活動を考慮し、整えることを継続していく。
	②	職員の配置数は適切である	4		・基準の 2 名の指導員(保育士)の配置を厳守。加配配置をおこなっている。	・引き続き、休暇の調整等を行いながら、配置数を適切に保っていきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		・電気プラグへのカバー、棚や引き出しの会へ防止器具の設置、家具の鋭角へのカバーなどで安全な環境を整え、日々チェックし保たれるようにしている。 ・部屋がわかりやすいようにイラストをふまえてわかりやすく提示しています。	・洗面所には手の洗い方や順番を掲示する。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		・清掃チェックシートを活用し、毎日の清掃や感染症対策を怠らず、職員がお互いに声をかけあい、清潔への意識を高めている。 ・日々の清掃をしっかりと行い、衛生面や心地良く過ごせる環境づくりを意識している。 ・毎日清掃を行い、清潔を保っている。	・清潔を保つ。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4		・毎日職員全員参加のミーティングを行い、PDCA サイクルの実行に努めている。	・毎日のミーティングを継続する。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		・保護者様、関係機関等からご指摘いただいたことやご意見を職員全員に周知し改善に向けすぐに取りかかっている。	・保護者様からいただいたご意見を大切に、業務改善にすぐに取りかかります。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			・R5 年度は R6.3 月に HP 上に公表いたします。

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		4	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内年間研修計画を作成し、それに基づき毎月実施し、自己研鑽に努める。事業所外研修へも職員全員が積極的に参加し、受講後は不参加となった職員へ内容の共有を行う。 ・毎月研修を行い、職員の質の向上につなげている取り組みを行っている。 ・毎月の研修時に気付いたことの見聞交換を行っている。 	・今後も自己研鑽に努めます。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している		4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様から毎回の療育中に話を傾聴し、変化するニーズや課題を把握できるようにしている。 ・定期的にあセスメントを行い、日々の療育につなげている。 	・アセスメントと評価を職員全員で話し、共通理解し支援の方向性を統一していきます。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		4	・教室独自のプログラムアセスメントシートを用い、客観性・具体性を高めている。	・継続していきます。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている		4		・地域資源の活用のため、自治体の自立支援協議会との連携も深めていきます。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている		4	・毎回の療育プログラムで、個別支援課題を必ず取り入れている。	・今後も毎日ミーティングを実施し、支援の振り返りを行っています。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている		4	<ul style="list-style-type: none"> ・教室独自のプログラム立案を職員全員で技術獲得、継続できるように振り返っている。 ・日々の療育の振り返りを行い、職員で話し合いの時間を設け、チームで療育を行っている。 ・カンファレンスを通して、活動の共有、経過の話し合いを行っている。 	・継続します。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		4	・教材を毎月入れ替えている。	・継続します。

	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	4			・個別レッスン、ソーシャルレッスンの目的と評価を明確にしています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		・毎日ミーティングを実施し、確認している。	・継続します。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		・毎日ミーティングを実施、記録にまとめ振り返りながら共有を行う。 ・ミーティングの時間を設け、全体で共有している。 ・終了時に情報共有を行い、話し合いをしている。	・継続します。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		・サービス提供記録の記録を徹底。保護者様へ写しのお渡し、公開、共有している。	・継続します。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		・最低 6 カ月以内に必ず行っている。	・中間評価を定め、より細かい支援へとつなげます。
関係機関や保護者との連携関係機関	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		・児発管が主に参加。お子様の様子、保護者様のニーズを把握し、参加。	・継続します。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		・行政、子育て支援センターとの日頃より連携している。	・継続します。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当なし	該当なし
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当なし	該当なし
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		・事業所ないでお子様の成長の記録を2か月ごとにまとめ、保護者から共有することを書面にて説明許可を得てから支援内容ふくめて情報共有を行っている。 ・成長記録としてまとめた書類の共有やそれをもとに話し合いを行っている。	

連携	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		・就学時、担当者会議を行い療育の内容を共有。	
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		・発達支援センター主催の研修を受講。連携を行っている。	・積極的に参加していきます。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4			・具体的な交流の機会を設けられるようにしていきます。

	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4			・より積極的に参加していきます。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		・毎回の療育で必ず伝える時間を設けている。	・続きます。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	4		・毎月末行っている。 ・月に1階ペアレント・トレーニングを開催している。 ・毎月、決めた内容をもとに行い、おたよりに参加できなかった方へむけても内容がわかるようにしている。	・行われている日時をよりわかりやすく口答で伝えるようにする。よりたくさん保護者様が参加しやすいように日時設定を工夫する。

保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		・契約時、書面に照らし合わせ口答にて説明し書面をお渡ししている。	・契約時の丁寧な説明を継続しながら再度利用者全体へ、便りや個人LINEへと発信し伝えていく。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		・説明を必ず行い、サインと押印をいただいた後、控えをお渡ししている。	・支援内容の説明をより丁寧に言い意思決定支援に努めていく。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		・積極的に保護者様と話す時間を設け、傾聴の姿勢で支援を行う。	・日々の療育で保護者様からの困りごとや相談を話せる雰囲気作りを行い、保護者支援を行うが時間が足りないと感じるため、改善していきたい。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4			・具体的に活動の機会を作り、保護者様同士の連携の機会をつくっていく。

	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		・内容をすぐに職員同士で共有、すぐに対応できるようにしている。	・児発管だけでなく、職員全体で保護者支援の時間を増やしていく。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		・毎月、たよりを作成し発行。事業所内に提示と個別 LINE にて発信。 ・お便りや SNS で情報を発信している。	・Instagramやブログを更新した際には、その都度伝えていく。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	4		・個人ファイル保管庫の施錠。メール FAX にて書面共有の際、伏字使用。 ・個人ファイルが入っている棚には鍵をかけて徹底している。	・ヒヤリハットを活用しながら、より慎重に取り扱いに気を付けていきます。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			・わかりやすい言葉で伝え、絵カードなどで理解しやすいように示していく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4		・地域との交流を大切にしていける。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		・緊急時マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定。職員全員での読み合わせを行い、徹底。事業所の保護者の目の届く所へ設置。 ・いつでも見られる場所に置き、訓練を行った際は保護者にもお伝えしている。	・各種マニュアルの閲覧を保護者様にうながしていきます。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		・防災計画に基づき実施。	・訓練実施後には、より分かりやすく掲示などでお知らせしていきます。また、多くの方が参加していただけるように訓練計画の見直しを行います。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4			
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			該当なし	該当なし
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		・記録し職員全員に周知。振り返りを行い、繰り返さないように予防し、危機管理能力を高める。	・継続していく。

					・ヒヤリハットがあった時は全体で共有しその後の対応も話し合っている。	
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		・契約時、保護者様に説明を丁寧に行う。身体拘束について事業所内研修を実施、周知、徹底。	・継続していく。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4			・現在は該当なしであるが、状況により対応していく。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。